



COMPACT
disc

妖怪CUTY

Ver. 1.0

ケータ「あ、フミちゃんだ！」

ケータ「フミちゃ〜ん！
よかったら降りてきて
一緒にサッカーしようよ〜」

フミ「ごめんなさ〜い
今、手が離せなくて〜」

ケータ「そっか〜分かったよ」

フー

フー



先生「いいのか？木霊…行かなくて」

フミ「は、い…私、もう子供じゃないから
遊ぶなら、ゴツチの方がいいです…んっ♡」

先生「●学5年生は立派な子供だぞ
なのに、こんなにキューキュー締め付ける
エロマ●コして、悪い子だ」

フミ「は、ああっ♡ 先生のおち●ポ太おい…
私の子供マ●コ…ガバガバになっちゃうっ♡」

は
い

ん
あ
っ♡

はッ

先生「お、お、お…マ●コがヒクヒクして
急に締まってきた…木霊気持ちいいか」

フミ「う、うん♡ 先生のゴツゴツおチ●ポ
さつきから私の気持ちい所、全部当たってるのっ♡」

はッ

先生「木霊はマ●コは、まだ膣壁がツブツブしてて
先生もすごく気持ちいいぞ」

はッ

フミ「う、うん、子供マ●コ…先生の大人チ●ポ
相性バッチリ…過ぎって、すぐイッちゃうよ」

おチ●ポ
が
ツブツブ
して
る

イッ
ちゃ
う

フミ「先生♥先生♥ 私イク…イクっ…
イッチヤいますっ♥」

先生「いいぞ、先生と一緒にイこうじゃないか」

フミ「せ、先生っ♥ 中あ…中に下さ…ひ♥
射精感じながらイキたいですう♥」

先生「木霊は、まだ初潮もまだだから
安心して出せるなっ！イクぞ！」

フミ「は、はい来てえ♥」
(ホントは先週、初潮きたんだけど…内緒にしとこ♥)

あ
あ
あ

い
い
い

は
は
は

い
い
い

は
は
は



♡♡♡
♡♡♡

フミ「はあ…あはあ…ん♡
エヘヘ…精液出てきちゃった♡
温ったがあい…♡」

キンコンカンコン♪

先生「さあ、チャイムがなったぞ
授業に戻りなさい」

フミ「はあ～い♡」

フー…
フー…
フー…

おしり

おしり

フミ「お兄さん、カッコイイね♡
良かったら、私と遊んでくれないか?」

ヤンキー「マジで?遊ぶ♪
ってというか、いくつ?チョー若そうだけどw」

フミ「1才だよ♡
お兄さんは学5年生は嫌い?」

ヤンキー「チョー好きw っていうかヤパー!
すげーテンション上がるね」

ケータくんが最近フミちゃんの様子がおかしい
...とのことで、尾行してみたら何たることでしょう...

噂でしか聞いたことはありませんが、
アレはおそらく、アダルト妖怪の一種...

ホ
オ
オ

気性が荒く獷猛、近寄ってくる妖怪や
除霊師を無差別に攻撃する反面、
宿主には従順で、宿主の快楽を高める働きをするという...

ウイサー「...と、とりあえず...しばらく様子を見ましようか...
も、もちろん...ヒビつてるワケではなく...
これも作戦の内です。ええ、そうですとも...」



フミ「んっ、おチ●ポ…マン肉搔き分けて…
入って…くるうっ♡」

あ
あ
あ♡

ヤンキー「うひょー！なんだこのマ●コ…毛も生えてねーのに
内側は大人マ●コ顔負けの又又りくあい…」

は
あ
あ

ぬるぬる…

フミ「お兄さんの…おチ●ポお…
すごくおつきくて硬くて好き♡」

ヤンキー「ひやはw まだまだだって♪
すぐにオレの本気見せてやんよ」

フミ「あ♡お♡はっ♡お♡ すごひっ...
突くタイミング...私の腰とパッチリ合ってて
すっご奥までくるよ♡」

ヤンキー「まあな！音ゲーとか超得意だし
ピストンリズムはパッチシよ♪」

フミ「あ♡あ♡そこ気持ちい♡
抜く時、私の◎スポット引っ掻いてるよっ♡」

ヤンキー「分かってるって♡ このザラザラの肉壁んとコっしょ？
ここ通る度に、マ●コびくびく痙攣してんぜ」

あん♡

あん♡

ほ♡

ほ♡

ほ♡

フミ「お兄さん♥ ...私...イク...
もうイッチャウイッチャウ♥」

はッ

ヤンキー「オラオラ！
オレの射精までまだイクなよ」

はッ

はッ

はッ

はッ

はッ

はッ

フミ「ん、駄目え♥ オマ●コさつきから
ずっとイキたがってるのっ、イかせてえ♥」

ヤンキー「しかたねーイケイクいっちまえ！
罰として、オレの遺伝子思いっきり受精させてやっからなっ！！」



フミ「あ♡…ああ♡…
イキのいい精子い子宮の中でピチピチ踊ってる♡」

トク…トク…

フ…

ヤンキー「へへ…受精するまで
ずっと出し続けてやんぜ…」

ズ…ズ…

フミ「うん…いいよ…
受精…するう♡」

フ…

ヤンキー「おまw ほんとに●学生か？
ハンパねーちょうウケるわ(笑)」

ケータ「ふ、フミちゃん…そんなの…き、汚いよ…」

フミ「あら…ケータくん知らないの？
大人になったら皆コレするんだよ…はむ♡」

ケータ「あ、ああ…あつたくて…
気持ちいい…」

フミ「でしょ…私上手いんだから♡」

ケータ

ケータ…

フミ



ケータ「ふ、フミちゃん...オレ...
なにが...こみ上げて来っ...うあっ！」

フミ「あんっ♡ ケータくんの初射精汁...
アオ臭くて美味しっ♡」

んんん♡
んんん♡

んん♡
んん♡

んんん♡

んんん♡

ケータ「あ、ああ...」

フミ「んん♡ 子供手●ポお♡
これはこれで、いいかも♡」

んん...
んん...

フミ「ねえねえ…おじさん達…
私とセックスしませんか？」

おじさんA「なんだ？援助交際か？
いくらだい？」

フミ「ん～そうねえ…
一回100円にくらいでいいかな」

おじさんB「ひや、百円?!」

フミ「高いかな？ じゃあ…生セックスでいいよ」

おじさんA&B「いいや、それをお願いするよっ！」

フミ「あ…やだ…もう濡れてきちゃってる…」

おじさんA「こ、こういう事はよくしてるのかい？」

フミ「うん♥ 毎日してるよ♥セックスしないと
おマ●コずっとうずいちゃって堪らなくなっちゃうもん」

じわ…

おじさんA「ほ、ほお…なのにオマ●コは
まだこんなにピンクで綺麗なのが…素晴らしい…」

おじさんB「最近の子供は進んでいますなあ…」

はあ

はあ

ドキ
ドキ

フミ「んっ、んっ、気持ちっ♡
おじさん舐めるの上手あい♡」

おじさん「A「ああ…なんて美味しいんだ…
脱脂粉乳の様な乳臭さと、甘ったるい舌触り…
一生舐めていられるよ…」

んっ…
んっ…
んっ…

フミ「うん…いっぱい舐めてえ♡
オマ●コぶにやぶにやにぶやかすくらい♡」

ブルっ

んっ

あーっ

んっ

フミ「あ…おじさん…待って…お、おしっこ…
おしっこ出ちゃうぞっ♡」

おじさんA「いいよ…おじさんに飲ませておくれ」

ん…ん…♡

ぬいぢー

フミ「出ちゃうっ!!
ホント出ちゃうっ♡」

フミ「んんんっつ！！！！ 出たあ！！
おしっこ…おしっこおおおっ♡♡」

ビュッ

ビュッ

おしっこ
おしっこ
おしっこ

おじさんA「ああ…甘露甘露…
そこいらの清涼飲料水なんて目じゃない」

あああ
あああ
あああ

フミ「んんっ♡ やあっおしっこ、おしっこ飲まれてるう♡
やだあすごく嬉しいよお♡ オマ●コ羊ユンキュンしちゃうう♡」

フミ「おじさん...おチ●ポ...
...キンキン...すこおい♡」

ビューン

おじさんB「ああ...君たちの前戯で
大変興奮してしまつてね...」

ぬ
ら
り
が

ち
ぬ

フミ「うん、私もオマ●コにおチ●ポ
根本まで突っ込んで欲しくてたまんないの♡」

おじさんB「そうか...じゃあ遠慮無くいかせてもらうよ」

ム
キ
ム
ム
キ
ム

フミ「んはあああはあああ♡
おチ●ポ…おチ●ポ…スブスブ…て挿入って…くるうう♡」

おじさんB「流石に子供は体温が高いな…
膣の中もアツアツでヤケドしそうだ…」

ニクッ!



んんんん



フミ「あ、おお♡ まだ、まだ来るう♡
オマ●コの深さ変わっちゃうよお♡」

ああああ



おじさんB「まだだよ…子供マ●コでも
…根本まで全部挿入するんだ」

フミ「あ、だめ♡だめ♡だめ♡だめ♡だめ♡
その突き方…子宮りする時のおお♡」

おじさんB「そうだ…おじさんキミを孕ませたいんだっ」

んん

んん

フミ「孕める…孕めるよ…私もう生理きてるの♡」

おじさんB「じゃあ、おじさんのザーメン
キミの子宮に全部出してあげるよ」

フミ「うん…出して♡ 中年精液…●学5年生マ●コに
全部出しきって下さい♡」

フミ「んおおおほお♡ イグ...イクイクイクイクイクイクイクイク♡
おチ●ポ汁ダサれながら、何度もイクううう♡」

はあぁん♡
すげえ♡のお♡

おん♡おん♡!
おん♡おん♡!

イクイクイク

イクイク

イクイクイク

おじさんB「くう...なんてオマ●コだ...
バキュームのように精液を吸い付いてくる...
とても幼女マ●コとは思えんな...」

フミ「あ…ああ… だめ…こぼれちゃう♡
精液…もったいな無い…♡」

おじさん
おじさん

おじさん

おじさん

おじさん

おじさん

おじさん

おじさん

おじさんB「おじさん達のセフレになってくれたら、
これからいつでも出してあげるよ」

フミ「な…なるう♡ おじさんのセフレ…なるう♡」

貴方の周りで、急に大人びてしまった女の子はいませんか？

それはもしかしたら…妖怪の仕業かもしれません…

